東城新聞

半島の趣味(下)

高濱天我

見よ、歷史上にあらはれたる人種の競爭は決して過去の事實にあらず、是れ實に遠き將來に亘る大なる事實にして、現代世界の形勢は巧みに其表面を蔽ふに圓滑なる外交的辭令を以てするも、その裏面に於いて戰はるゝ惡鬪は天覆地載の間に漲れり、この間に國をなすもの、豈容易に假睡を貪るべけんや。

我が同胞は數次の冒險的大戰爭の洗禮によりて多少の學ぶところありしを覺ゆ、然はあれども、幾萬の生靈と巨億の財寶とを以てしたる報償は十分に回收されたりや、滿洲も、朝鮮も、更に數居の歲月を支出するにあらざれば、未だ以て完美したる秘寶といふを得べからざる也。

あゝ、朝鮮半島よ、是れ神功皇后、豐太閤の名に於いて、既に我が國民の感情的領圖たるもの、寧ろ今日に於いて之を第二の故鄕と呼はんには、祖先の名の前に心苦しきを感ぜざらんや。

願くば、故鄕を思ふことによりて得る趣味の間、朝鮮半島の趣味を咀嚼せしめよ、我が同胞が朝鮮半島の趣味を愛好するの日到るに非ずんば、いふところの暴徒なるものは依然として南山の中腹なる統監旗に向つて矢を番ふべし。

半島の趣味は大陸の趣味なり、尠くとも平原の趣味なり、悠々として迫らざるの趣味なり、洋々として盡きざるの趣味なり、這般の趣味は日本文學に於いて未だ多くあらざるところ、今日之を採つて以て詩に、文に加ふるは決して徒爾ならず。

我が曩に半島の南角たる釜山に客たるの日、假に「文學出征論」を稿したりしが、論旨とするところ、戰役みだりに輕薄なる射利是れ事とする一輩の進發よりも、寧ろ耿々の意氣以て詩人、文士の海外出立の急なることをいふに在り、此の如きは、昔者神功皇后の武勳によりて、年々八十艘を貢したる新羅の文化を逆にし、我が國の文明を以て半島の天地に光被せんに似たらずや、然れども當時聽く人稀にして、我が主張は我自らの事業として我が努力すべき責任となれりし也。

後、轉じて京城に入り、長風先生の下に在るや、百花一時に爛熳たる春光に逢ひ、從來の「百花爛熳」なる成語を見ること一種の形容詞に過ぎずとせしことの稚かりしを悟り、半島に於いて學ぶべき詩人、文士の領土をたゝ大なるを知れりき。

あゝ、半島の趣味は今や日本文學の一方面たらんとす、而も半島に在るの士、何ぞ徒らに陳套なる類例多きの想を繰り返すの愚なるや何ぞ進んで眼前の新しき故鄕の趣味を採らざるや。

漢詩に於ては、其數量多くして而も固有名詞のみ轉換されたる恨みあり、俳句や和歌はいふに足らず、長詞には其例無し、あるものは全く半島の沒交涉のものに過ぎざる也、小說にや、見るべきものあれども眞に半島の趣味を悃すべしとは、許すべくもあらず、思ふてこゝに至るいづくんぞ一大長歎息を禁ずべけんや。

日露戰爭の酣なるや、勅して宣まはく、「前途遼遠」と、あゝ、半島の趣味の宣傳も亦まさに前途遼遠なり、苟くも詞に、文に携はるの士、夫れ勖めずして可ならんや況して我が同胞には未だ半島を知らざるの人々多く、殊に見聞狹隘なる文壇の士に至りては殆んど半島の智識に欠く、從つて半島に在るの士や其責一入輕からざるをや、勉めん哉。

理路玆に漸く傍徑に入つて論緒つきず、唯恐る机上の冗語に歸せんを、乃ち首尾の共に頭なるを顧みずして筆を拾つ。

●六月中の京城商況(三)

△セメント 淺野、香港、小野田三種共目下諸工事の開始中とて需用多く中にも淺野香港セメント等は最も賣行好況なり値段に於ては前月と同樣なり

△板硝子 金物と同樣建築材料用として需用多く好況なり値段に於ては前月に同じ

△新炭 目下時候柄各種共需用者少なく從て地方よりの出廻り捗々しからず木炭にありては各店とも相當の賣行あるに係らず値段に於ては前月よりは十貫目に付十五錢方の下落を呈せり

△木材 前月同樣引續き建築工事の勃興に伴ひ好況なるも昨年の同期に比すれば比較的民間に於ける諸建築工事少なき爲め大に需用減少せり然れども杉四分板、六分板(一間もの)の如きは一般に需用多くして賣行最も好況なり値段に於ては前月に同じ

△和洋紙 本月は前月よりも幾分活氣を呈し多少賣行あるも大なる取引少なく沈靜の狀態なり値段に於ては和紙二丸入一個に付二圓方の高價を呈せり

△官烟草 一般商況不振なるに不拘相當の賣行ありて昨年の同期に比し約七分賣行增加せり然れども夏期二、三ケ月間は例年烟草の需用少なきを例とせり故に前月に比すれば稍や賣行減少したり尙は七、八兩月は一層賣行減少を見るならん相場に於ては三月以來變動なし(完)

●富興里の狀況

此地は平安北道鴨綠江上流にあり曾て賊徒出沒の爲め日韓人及淸國人流筏に從事する者久しく休業し居りしも今日に至りては地方平穩となりたるを以て以前の如く流筏に從事し居れり而して農民も全く安堵し其業務に就けり而して從前通行人なかりしも現今に至り韓人の小賣行商人時々來るに至れり又賊徒襲來の爲め一時避難の爲め淸國領土に假寓せし富興里民も歸家せり彼等の言に依れば七洞溝より十二洞溝に至る間(鴨綠江右岸)に少數の賊徒出沒し居れりと

●太田の電氣事業

太田にては他日南韓鐵道の基點が鳥致院に移るも優に其繁榮を維持すべき方法として儒城川及び柳頭兩河の水を利用して電力を應用すべき計畫あり技師をして設計せしめたる處兩河により約九百三十馬力の電力を得べく斯くて五百馬力を以て電車を運轉せしめ他の三百馬力を各工場の動力に供給し殘り百三十馬力を以て電燈を点せば頗る便利なるべく而して其の總費は三百萬圓の見込みなりと

小說 新[illegible]歸 (五十八)

篠原嶺葉著

百合子は暫く、思案に沈んだ後、思ひ切つた樣子で、
『何んと仰せになつても、今更然う云ふ事はどうあつても私には能ませんから、これぱかりどうぞ御免下さいまし、一生のお願ひでございます。』



と、答へたが、其聲は太く顫を帶びて、如何にも殘念そうに響いた、それも無理ならん事で、西脇家の秘密さへ足柄の手に握られて居られなかつたら、假令良人の親友であらうと、かゝる無禮な辭を聞く上は、心行くまで窘めたいは人情の常である、それを唯の一言たりとも言ひ得られぬ百合子の心中は、誠に憐むべき境遇である。

百合子の答を聞いた足柄は、火の如き息を出して、烈火の如く怒るであらうと思ひの外、
「では、僕の願ひは聞き入れないと有仰るんですね。」
と、念を推した。
「さうで、それぱかりは……。」
と、百合子は飽くまで答へた。
「では、僕の妻になつて下さいと云ふ事は貴方の望み通りに斷念爲ませうが、其代りもう一つ願みがあるですが、これぱかりはどうぞ聞き入れて下さい、外の事ぢやありませんが、僕の情婦になつて貰たいです。』
『ねえツー。』
『情婦と云ふては解らんかも知れんですが僕の意に從ふて、尾花の目を忍んで密通するのです、これなら豈夫能ない事はないでせう。』
『なんで私に然う云ふ事が能ませう、足柄さん、貴方は私に奈何云ふれ恨があるかは存じませんけれど、私は貴方に恨まれるやうな事は露ほども覺ねはございません、それに奈何して斯うも種々な事有仰つて、私をお苛めなさるんです、あ……あんまり酷いぢやございませんか。』
と、顫へ聲である。
『それぢや、情婦になる事も可厭だと有仰るのですね、宜しい、然う貴方が可厭だと有仰るなら、其も思ひ切りませう、其代り唯の一度で宜しいから私の意に從ふて下さい、それで貴方に對する戀の煩悩をスッカリと斷念めて終ひます、貴方は私が無情に苛めるやうに有仰るが、それ程惚られるが可厭なら何故美しく生れて來ました、惚られる貴方も煩さいか知らないが、惚た僕の身にもなつて貰ひたいです、思ふ戀が遂げられないと云ふものは、隨分辛いものですよ、若貴方が僕の願ひを聞いて下さりや、決して貴方の兄樣の秘密も他に漏さないと云ふ事を誓ひます、恁う云ふと何ですが僕が此の秘密を些とでも漏らさうものなら、貴方も尾花家に居なさる事が出來ない境涯に沈むで、西脇家は社會に顏出しのならない悲境に陷りますぞ、貴方の返辭一つで此の浮沈が定まるのですから、能く考へて返辭を爲て下さい、他我に辛ければ我又他に辛しとは此處の事です。』
と、愈よ百合子の最も怖れつゝある、秘密と云ふ利劍を拔放つて、胸先に突き付た。百合子も、今は我身は勿論、西脇一家の浮沈に關る一大事であるから、如何はせんと打沈むだのである。

京城新聞

暴徒鎭定狀況の公表を望む

我が精鋭なる軍隊の暴徒討伐は着々効を奏し、紛擾の如くなりし地方の狀態は稍穩靜に歸せりとは近來屢聞く所なり、余輩は未だ其の公報に接せずと雖ども、諸種の情報は以て首肯せしむる所のものあり、我軍隊の増遣せられ地方に巡發せられてより既に二ケ月有半、鎭壓出役極りなき匪徒の事なれば軍隊に於ても勞多くして効少きは素より其所なれども、我が嚴正なる軍隊の威に服して從來の如く蠢爾たる暴行を逞うせざるのみならず、多くは其影を潛めて歸順するものあるに至れりと聞く、之れ實に喜ぶべきことにして余輩は滿腔の熱誠を以て軍隊の辛勞を感謝し其勤勞を讃するものなり、

軍隊の公報未だ到らざるに之を云ふの聊か早計に失するの感なきにあらざるも、余輩の耳朶に觸るゝ所は、我軍隊を信ずる所によりて想察すれば決して早計ならざるを信ずるなり、果して余輩が聞く所の如くんば之が公表を當局者に迫らざるを得ず、當局者に於ては種々の事情ありて未だ之を公然發表するの運びに至らざるやも知らずと雖も余輩は此際一日も早く公表せられんことを望まざるを得ず、之が公表は帝國の勢威を發揮するに大なる利益あればなり、韓國に於ては未だ之等の情報を知らざる爲めに暴徒今尚は猖獗すると思へり、之が爲に渡韓を見合せ居るもの鮮からず、殊に東洋拓殖會社及勸業銀行創立に關し影響する所のもの頗る大なり、拓殖會社も勸業銀行も新内閣の成立と共に從來よりも創立順序に於て一層の進捗を見るべきことは明かなり、然るに地方の暴徒にして鎭定せざるに於ては勢ひ多少の頓挫を來たさゞるを得ず、既に創立期も確定し株金拂込の期も漸次切迫するの時に於て、地方暴徒の情況にして詳にせられざれば株主たるべきものは勢ひ其拂込に躊躇すべきは自然の勢ひにして、斯る憂あることが眼前に横はるの際なれば、當局者は速に之を發表して日韓兩國々民に安心を與へざる可らず、余輩の聞ける如くに好成蹟ならずして事實は之に反するものあれば止むを得ず、未だ全く鎭定せざるが爲に發表せずと云ふも不可なり、元來韓國の暴徒は草賊に等しきものなれば各地方共全然之を掃討し終ることは到底短日月の能くする所にあらざるべし、故に概して之が鎭靜に歸すれば軍隊の討伐は終りとせざる可らず、殘匪の時々起るが如きは地方在留邦人の團結的態度に依りて防衛するか現時の憲兵補助員に依りて警衛するか、開拓は幾多の方法あるべし、要するに現時の鎭定狀態を公表して國民の心を安ずると共に拓殖事業の如き積極的經營を進ましめざる可らず、之れ余輩が當局者に其發表を勸告する所以なり。

●對星樓茶話

▲韓國研究中吾人は此三案に向つて天下の示教を仰度候、其一は新羅の古都たる慶州の文化に就て、其の二は扶餘族の南下したる長津高原の古代遺跡に就て、其の三は百濟史に就て候。

▲春川府に韓王宮の離宮を造營致度ものに候、春川はソシモリの都のみにて有名なるに非ず、韓王の離宮地として頗る好適地と存候。

▲暴徒系より政治的系統ある暴徒の種類著しく減少したる由傳聞致候、韓人も段々倦みたる可く候。

▲韓人の政治論の大半は尚儒生の政論に候。

▲仁川港の繁榮を謀るに今尚は仁川港の一港灣を以て期待せられつゝある間は、到底不可能たる可く候、賢明なる仁川人士が世界の商路を幾分なりとも仁川まで開拓せらるべく計劃致す度候、半島横斷鐵道は實に仁川港繁榮の最初の機會なり。

▲民團議員は統監府により撰擧せらるべしとの説あり、斯る説論を聞くこともあり。

▲新鐵道賃實施後近距離の乘客大に減少したりとの事實際に於ては如何、鐵道當局より實蹟の公表を希望致候、併し賃銀改正を批難するは未だ少しく早かるべしと思致候。

東京電報

▲駐英大使後任

小村駐英大使の後任には林前外相任命せらるゝ事に決定せり

▲新内閣と地方長官

新内閣は地方政務の統一を期するため可成的知事を交迭せざる意見なるも地方よりの知事取換へ運動を爲すもの多く桂首相以下大に持て餘し居れりと

▲大同倶樂部と首領

大同倶樂部は大浦男を首領に推さんことを懇請し居るも男は其の時期に非ずとて應ぜず（以上十九日發）

▲滿鐵と監督官廳

南滿鐵道は是迄大藏外務遞信三省の監督なりしが今後は遞信省にて監督することゝなれり

▲本年の米作

本年の米作は氣候不順の爲め水害等あり多少被害ありしも今后天候回復せばさして影響なかるべし

▲文部次官の後任

文部次官澤柳氏辭任の結果岡田良平氏其の後を襲ふべし（以上二十日發）

▲内務次官決定

内務次官は法學博士一木喜德郎に決定す（二十日發）

雜報

●滿鐵會社の前途

後藤男は今回滿鐵總裁より轉じて遞信大臣と爲りたるが後任總裁は之を置かず當分總裁の位地を缺員の儘と爲し中村副總裁は前總裁の總ての經營方針を祖述し實行するに内定し居る由なれば向後の滿鐵經營は何等の異動あるべくもあらず殊に男入閣に先つて滿鐵經營及び入閣後の同社方針に就ても深く桂侯の同意を得居る次第もあれば中村副總裁理事以下役員の協力奮勵を以てせば同會社の前途決して悲觀するの必要無し加之從來外務省に專屬し來りたる滿鐵會社は更に或方法によりて後藤遞相の監督下に立ち得べき豫定なりと云へば同會社と後藤男との關係は其實質に於ては何等の變動を見ざるべく却て滿鐵の十年計畫其他雄大の抱負は着々實行せらるべしと信ずべき事情あり後藤男の中途轉任を以て滿鐵の前途を悲觀するが如きは最も謂れ無き皮相說なりと聞く

●三南鐵道起工期

京釜線より分岐して忠清、全羅の沃野を横斷して木浦に至るべき三南鐵道は愈よ太田より分岐することに決し本年中に建築材料を蒐集し來四十二年四月より工事に着手し四十五年に竣工せしむる豫定なりと

●教監會議（第五日）

一昨十九日（日曜日）も引續き開會午前九時より午後一時迄注意事項に就き學部局課長よりの說明あり午後二時より旣報景福宮内慶會樓に開催せられたり李學部大臣の宴遊會に京城内官立普通學校長同中等程度學校職員中奏任以上の者及び學部次官以下高等官一同と共に招かれ席上李大臣の挨拶に對し山崎水原普通學校教監の答辯あり會食後蓮池の邊に設けられたる摸擬店を開かれ終りて一般の觀覽を許されざる宮殿の内部を特に拜觀する事を許され各宮殿拜觀後午後五時散會す因み記す會議は昨日を以て大体に終了したるも尚學部に於て各地の狀況の諮問すべき事項並に學部各局課と打合を要する事務ありて昨今兩日午後開會したり

●度量衡改正に就て

農商工部に於て昨年以來研究を重ね略改定の事に決定し居りたる度量衡制度が有力なる筋の時期尚早論によりて一頓挫を來したる旨は屢報導し置きたるが此の問題に就ては韓國の度量衡が各地方によりて習慣を異にして統一を缺げるは啻に韓民の不便とするのみならず日韓人間の經濟關係が密接となりたる爲め日本人の不便不利誠に甚しきものなるを以て此の際日本の制度と同一に韓國の度量衡を改定すべしと云ふ議論及び多年の習慣を強制的に一朝にて今日此れが改正をなすは韓國民をして誤解を懷かしむる原因なるを以て當分現狀に放任し更に適當の時期を見て改正すべしとの議論並に度量衡の改正は早晚行はざる可らざるを以て先づ當分は現行制度の度衡に日本制の位目を併刻して此れを使用し日韓民が日本制の便宜なるを知りて一般に此れに依るの傾向を生ずるを俟ちて日本制同一の制度を布くべしとの折衷論の三說あり目下當局者間に於て此れが利害得失に就き研究中にして議論百出未だ決する所なしと云ふ

●民刑訴訟規則（續）

第二十四條　民事の原告又は被告或は刑事の被告が審問期日に出廷せざる時は裁判所は缺席判決を行ふことを得

第二十五條　第一審又は第二審の裁判所に於て行ひたる缺席判決に對しては缺席者より故障の申提を行ふことを得

第二十六條　故障期間は民事は判決送達の日より十四日刑事は罰金刑を宣告した時に當りては其判決送達又は判決ありたることを知りたる日より其他の刑を宣告したる判決に當りては判決ありたるを知りたる日より五日とす

第二十七條　故障は缺席判決を行ふため裁判所に其申提書を提出して之を行ふ

第二十八條　裁判所が故障を受理したる時は訴訟は缺席前の程度に復す

第二十九條　再度の故障は此を許さず但缺席に過失なき時は此限にあらず

第三十條　控訴院は區裁判所又は地方裁判所の第一審判決に對して此を許す但缺席判決に對しては缺席者より此を行ふことを得す

第三十一條　控訴期間は判決宣告したる日より民事は一個月刑事は五月とす

第三十二條　控訴は其申提書を原裁判所に提出して此を行ふ

第三十三條　控訴裁判所は控訴の理由なき時は此を棄却す判決を行ひし理由ありたる時は原判決を取消し更に本案に對し判決を行ふ可し但管轄に關する規程又は訴訟手續に違背したる理由を以て原判決を取消すことを得す

第三十四條　上告は法令に違背したる判決に對して此を許す但缺席判決に對しては缺席者より此を行ふことを得ず

第三十五條　財產權上の請求に當りて宣告したる判決に對しては上告に因りて受る利益が三十圓未滿なる時は上告することを得ず

拘留又は笞刑又は二十圓以下の罰金を宣告したる判決に對しても亦同じ

前項の規定は此を檢事に適用せず

第三十六條　上告裁判所は上告申提人に對して期間を定めて上告趣意書の提出を命ずることを得

前項の期間内に趣意書の提出なき時は上告は此を取下たる者と看做す

第三十七條　上告裁判所は趣意書を對手者に送達し期間を定めて答辯書の提出を命ずることを得

第三十八條　上告裁判所は書類にのみ基き判決することを得但被告を審問するに當りて辨護人を差出すことを得

刑事には被告を審問することを得す上告裁判所は書類にのみ基き判決を行ふ場合と雖も刑事には檢事の意見を聽く可し（未完）

●税關規則發表

仁川税關規則は急に昨日午後發表されたり兼て起草中なりし

●土地家屋所有權證明規則

土地家屋所有權證明規則に關する件昨日の官報を以て左の通り發布さる同規則は來る八月一日より施行さるゝと云ふ

第一條　土地又は家屋の所有者にして左記各號の一に該當する者は其所有權の證明を郡守又は府尹に申請するを得

一、土地家屋證明規則施行前は土地又は家屋の所有權を取消したる者

二、土地家屋證明規則施行後に賣買、贈與又は交換に依らずして土地又は家屋の所有權を取得したる者

第二條　前條の場合に土地家屋證明規則の規定を準用す

第三條　外國人にして第一條の證明を受けんとする者は此を日本理事官に申請す可し

第四條　本令に關する細則は法部大臣此を定む

●賊徒討伐情況

△咸鏡南道高原守備隊は元山守備隊より派遣したる第九中隊の討伐隊と協同し七月十一日高原西方揚坪里附近にて約四十の賊を討ち廿五を殪し村田銃二火繩銃十九を鹵獲す△三水守備隊の少尉以下十六名は七月十四日三水西方の地邊にて約三十の賊を討ち其三を殪す△報恩守備隊より出したる上等兵以下五名は日韓巡査四名を變裝して七月十二日報恩南方二里にて賊魁一名を捕へ賊三名を殪す△慶尚南道慶州守備隊區内にて六月廿七日より七月八日に亘る智異山脈討伐の結果賊五名を殪し三名を捕ふ此討伐を以て從來賊の根據としたる智異山は今や殆んど潛伏の餘地なく四散するに至れり△慶尚北道興實守備隊の下士以下九名は七月十一日興實東方約五里にて約七十の賊を討ち其八を殪し雜品を鹵獲す△海州守備隊の特務曹長以下は六月廿九日郡内にて約四十の賊を討ち其十二を殪し銃器八を鹵獲す△京畿道汶山分遣所の憲兵九名は七月十六日河の北方臨津江上にて乘船逃走中の賊船を追躡し江上にて交戰約四　の賊を長端郡内に潰走せしむ賊の死五負傷八名銃九其雜品を鹵獲す△慶尚北道奉化駐在所巡查四名に汶山守備隊の下士以下と共に七月十一日才山の東南二里にて賊三名を殪す△忠清南道海美駐在所の巡查は七月十三日郡内にて賊二を殪し若干を傷く

●下通里狀況

咸鏡南道咸興郡下通里地方の各村民は十中の九農に他は商業に從事し各自家務に餘念なしと雖も未だ耕作事業依然として發展せず交通の不便なるにより終年勞すると雖も其獲る所僅少且つ上岐川面内には米穀を產出するも下岐川面内中嶺鎭隱寨里中坪里下通里及朝陽面の一部は米穀の產出なく粟、豆ラパの類を產出するのみ從て貧民多く生活の程度概して困難なり而して住民の我官憲に對する感情は附近は長津方面に通ずる沿道の諸村多く加之常に賊徒の横行するを以て屢々我官憲は出張し村民の保護に專ら盡瘁しつゝあるを以て漸次德化に浴し信頼の狀あり然れども往々山間の部落に到れば婦女子を始め土民一般に恐怖心を懷き居れり△土民の宗教は古來よりの習慣として宗教心に富み屋内に於て酒饌を供し祖神なるも又た除病、退魔の祈禱をなすなど宗派は佛教多く耶蘇教信者は僅少にして二岐川面五老村に天主教の教會に類するもの一あるのみ△衛生は概して山間の部落なるを以て自然衛生上好適なり飲用水には清透なる冷水湧出す只僅に濕氣強く夜間に至れば雲霧深く頗に冷却するも傳染病の患者なし△學事に到ては幼稚のものなりとす下通里にては戶數三十五人口百九十餘を有するも文字を解するもの僅に十數名に過ぎず素より學校の設置なく又た他方に遊學するものなし只私塾一ありて村見を集め諺文の教授をなすと雖も家事の餘暇ある春冬の機を利用し夏秋は閉塾して一般農業に從へり又父兄に在りても子弟の教育に就きては重きを置かざるものゝ如し

●最近貿易比較

仁川税關を經過して輸入したる二半期貿易の最近の比較したるものを國別に示さば左の如し

國名	四十一年	四十年	三十九年
日本より	三、五七一、八〇一	六、一二四、四〇四	三、七四七、八〇五
支那より	二、〇八五、〇三七	二、六九七、五六一	一、七七九、三六六
露國より	─	二、三二四	─
米國より	一、二〇四、六九七	五六〇、一二八	一六六、八三〇
英國より	一、九九六、三八六	二七四、一四三	一九、二四三
獨逸より	二三九、九〇三	─	─
佛國より	四三、一三九	─	─
其他より	二三九、四八八	─	─
計	九、二三九、五六七二	五、一八、六七	六、六三三、四二七

●仁川會議所委員會

仁川商業會議所に於ては一二重要案件につき不日委員會を開く筈

●宣教師の活動

釜山港在留の米國宣教師アービン氏は今回本國傳道會社の旨を受けて學校の經營をなすことゝし釜山鎭に校舍を建築し韓國の少年を教育し宗教の宣傳に努むる筈にて目下工事中にありと尙は遠からず女學校をも設立し女子の教育をも開始する筈なりと

●伯爵後藤猛太郎氏

釜山鎭大埋築の事業主なる同氏は目下來城巴城館に滯在中なるが聞くところに依れば同氏今回の用向は釜山港將來の設備に關し當局と打合せの爲なりと云ふ

●追贈

前内藏院卿洪秉健氏祖父曾父へ對し從二品奎章閣提學以下十二名の極以下の官位を十八日依法典に追贈せらる

●任免

十八日附

掌禮院卿　李 金 夏

依願免本官（病氣に付辭表提出）

從二品　成 岐 運

命掌禮院卿敘勅任官一等

●警部の任命

關東都督府警部吉田秀松同警部中原恒吉の兩氏は共に在官の儘韓國警部に任せられ五級俸を給せらる任地は共に未定なるも地方警察署長を命ぜらるゝなるべし

●十九日參内者

昌德宮に二十七八（内婦人四名）重なるは承寧君引發、侍從李龍漢、同金德鎭、典醫李浚呂、同尹

德壽宮に上十六八（内婦人二十九名）重なるは侍從殷柱東、同朴普軾、闕金施培等なり

公人私人

▲時尾善三郎（工兵大佐營林廠長）　滯京中の所一昨日安東縣へ向け出發

▲佐藤政次郎（勸業模範場技師）　一昨日水原へ歸任

▲後藤猛太郎（華族臺華殖民會社長）　一昨日來京巴城館

▲大江休逸（臺華殖民會社員）　一昨同上

▲相良行致（步兵中佐）　一昨日不知火旅館

▲石丸勝一（佐賀市長）　一昨日天眞樓

●近事片々

▲伊公　訪者に語て曰く辭職云々は自身の意の如くならず　陛下の御思召に依る也と

▲態度　及口吻に依れば暗に辭任の意あるものゝ如しと傳ふ現實となるは何れの日ぞ

▲監督　オードリー師倫敦タイムスに寄書して日本の實情を明にし誤解を正されたり

▲歐米　に傳說さる如く對外政策に何等の怪むべき所なし唯夫れ平和に汲々たる也と

▲誤て　之を排斥するが如きことあらば却て反撥して不測の結果を生ずべしと警告す

▲亞人　排斥ば亞細亞は亞人の亞細亞の感念を懷起せしむるのみと言ひ得て甚痛快也

▲曾禰　副統監教監を會同して懇々教育の本旨を說示す能く韓の時弊を穿ち得て妙也

▲更に　一詩を賦せり緊文會作邦家累萬零不如目敎敦何要討論又演說人間妙訣在無言

▲此詩　能く韓人の弊を痛戒せり教監等之を見で如何の感ある深く之を服膺せよかし

▲人間　の妙訣任無言にありとは甚ぞ妙也韓人由來口舌の雄多し將に是頂門の一針也

▲緊文　擬禮は由來東洋の弊習たり我官憲は適當の好警句に非ざる乎敢て之を聞はん

▲此詩　は啻に韓人のみならず統監府に或亦大に之に願ることの必要に非ざる乎否耶

▲澁澤　男桂内閣の政綱を評して曰く聞くが如くんば先づ其意を得たる者と是公平也

▲寺内　陸相の外務兼攝には種々の評あるも前内閣に於ける外交上の行懸ある爲也と

▲寺内　陸相の前内閣に於ける態度は目切り器量を上げたり首相の冠早晚に來るべし

▲桂内　閣に於ける平田と小松原は參謀にして安廣亦其帷幕に參する者の一人なりと

▲閣外　よりは伊東清浦等の熱心なる聲援ありとの噂有り兎角前閣に比して頗る鞏固

▲後藤　男の推薦者は意外の邊にあり清浦伊東も亦男の推薦者也と現閣の人氣役者也

▲大隈　伯迄か後藤の人格を大なりとし稱贊せり前途の行動世の刮目するの所となる

▲滿鐵　は當分中村副總裁をして萬事をなさしめ後藤遞相遙に之を聲援せんとの說有

▲中村　副總裁にして技倆あらば差支なし見玉が閣臣として總督を兼たる例もある也

▲然れ　ども中村是公の人物到底一任して大事を決行し得るや否は須く研究問題なり

▲東京　市長の候補者續々顯はる角田大岡千家及竹越三又迄が競起運動を始めたりと

▲併し　學堂に對する市民の信任尙多く存するものあり形勢は尾崎再選の模樣なりと

雜報

●笹の一葉　みどり生

皆さんズット此方へお寄りなさいまし、場代は一文も要りませんから……オホヽヽ……夫れはソウと冗談は廢しにして今晩態々皆さん方をお呼び申しましたのは外でもないのですが丁度今日が私しの誕生日に當るものですからソレで何もお構ひは出來ませんがホンの祝ひの印迄に手製のお壽司を少しばかり漬けましたからドウぞ御遠慮なく澤山と召し上がつて緩りと遊んで行つて下さいまし、サア美代子さんも良子さんもソンナに後の方に許り引き込んで居らないでズット前へお進みなさいな……

斯う皆さんがお揃ひになると私は何んだか嬉しいやうな羨ましいやうな氣がいたしますが……實際皆さん方の御出世は此れからですから本統に樂みなものです、私なども今一昔若いと皆さん方と一緒になつて負けずに勉強いたす積りですが這んなお婆さんになつて了つてはマサカ夫れも出來ずソレに何にや彼やと詰らない心使ひが起つて參りましてトテも勉強などの出來たものではありません夫れを思ふと私は心から皆さん方の境遇が羨ましくなりますサテ今晩は御覧の通り何にも皆さんのお口に叶ふやうなものはありませんが唯一つ妾の口からお話しいたす事を皆さん方の耳で召し上がつて腹の中で味はつて頂きたいものがあるのですソレは何んであるかと申しますが外でもありませんが私の懺悔話なのです……オヤお婆さんの懺悔談ですつてなどゝ思はず吹き出す方もありませうが此れはツマリ今の年頃の娘子さん達に取つては實際後車の戒めともならうと思ひますので……尤も皆さん方の中には斯ういふ方は一人もありはいたしませんけれど……

笹の一葉も露とやら、人間といふものは一旦此の世へ生れ出でました以上は貴賤貧富男女老幼おしなべて自分相當にいくらかの責任といふものはあるのです、彼の一國の政を御支配なさる大臣參議の方々は申すに及ばず紅葉の如き愛らしい手を差し伸べて「お母かちやん人形を……」とアマへる三ツ四ツの幼兒でさへヤハリ夫れ相當に自分の役目といふものがあります、ソレで人間は誰れでも此の役目……ツマリ責任といふものを滯りなく果したい爲めに餘計な心配もすれば人の知れぬ苦勞もするのです、現に皆さん方が此の暑い夏の盛りにセッセと私の宅へお通ひになつて裁縫やら生花やら琴やらを御稽古なさるのも外ではありません今に立派な殿御の方にお嫁入した時に充分に其のお家の奥樣としての地位を保ち資格を具へ品格を高めたいといふのに過ぎないのだらうと思ひます……オヤソンナに皆さん方が袖で顔を隠して下を俯いてクス／＼お笑ひになつては困りますよ、何にも恥しいことはないぢやありませんか（つゞく）

●鐘路監獄 未決囚の逃走

一昨日午前七時頃鐘路京城監獄署に於て韓人看守林順奎が例の如く洗面のため未決囚を監房前に整列せしめたるに渠等は兼て共謀したるものにあらん突然戸締用の貫拔棒を以て林看守の前額目がけて打込まんとするや林看守は直に拔劍して之を制止せんとするとき囚徒等は早くも一同揃て足を擧げて蹴り飛ばし看守の劍を奪ひて逃走を企てたり之を聞ける看守長清原氏は帶劍の遑もなく劍を提げて現場に駆け付けたり然るに囚徒等は林看守より奪ひたる劍を以て清原看守長に向ひたり多勢に取圍まれたる看守長は左手の母指を切落され更に右前肩を打撲せられ數ヶ所の骨折傷を受けたりこれに勢を得たる囚徒等は拔劍の儘前門に向ふ事務所にありて斯くと見たる看守は藤田看守部長と共に拔劍して逃走を防がんとせしも衆寡敵せず看守は指を切り落され不幸にも劍は中程より折れて用を辨せず事務室に歸り鐵砲を持ち出さんとする間に藤田看守部長は左肩に打撲傷を受け手も傷けられたるを以て如何ともする能はず囚徒等之に勢を得て本門に向ひ韓人看守等を威嚇し門扉を開き内亂罪未決囚三人强盗罪未決囚四十人總に逃走し去れり監獄署にては警視廳に急報し警察署に報知すると共に負傷したる清原看守長は漢城病院に執行看守林看守は大韓醫院に送りたるが清原看守長の負傷は最も重傷にして約二ヶ月の醫療を要すべしとの事なり

執行藤田の兩看守に切倒されたる囚徒は金想際なるものにして頭部其他全身各部に大小の負傷あり極て重体なるも死に至ることなかるべし而して逃走したる十三人の囚徒は昨日中に警視廳にて一人西部署にて二人中部署にて一人を捕へたり殘り八名は行衛未だ明ならずといふ

因みに云ふ臼井法部書記官は次官代理として中川検事長松寺書記官神野書記官と共に昨日清原氏以下の入院者を見舞ひ本日は法部大臣代理として朴秘書官入院者を見舞ひたりと

●仁川富豪の下女 月尾島投身

仁川屈指の資産家たる仁川本町一丁目金具商村谷勘藏氏方下女イチが此程家出をなし月尾島に投身して相果てし椿事こそ出來せり

▲イチの身元　原籍山口縣熊毛郡三輪村父姓名不詳西村イチ（二十）といひ昨年春原籍地より遙々村谷方の下女として渡韓し爾後まめ／＼しく立働き居たるが同人一家四人は如何なる前世の因縁にや揃つて俗にセムシにて村人にもセムシの一家と嘲げらるゝ程なるが同人も生來此病にて早や廿九の姥櫻なるもいまだ男の味とても知らぬ程なれば常に世をはかなみ如何なれば天は吾々一家をかゝる不具者となし玉へるぞなど下女同志にかこち居りしといふ

▲イチの家出　依つて村谷方にても憐れの者よと他の下女よりも一層目にかけ居りしが去る十八日午前四時頃突然家出し歸らざれば其日午前中に搜索願を差出し尙人を心當りに派して尋ねたるも皆目行衛不明なり

▲死体發見　かくて翌日午後二時三十分松阪町二丁目住田長五郎長女千代（十二）が月尾島岸に婦人の死体漂着せるを發見しかくと派出所に届出でたれば係官出張して引上げ取調べて見ると前記イチなる事を確めたり

▲原因　は前記の如く勿論一家族の不遇を悲み此無分別に至りしものなりと死体は村谷氏引取りたり

●韓女の自殺未遂

一昨十九日午前十時三十分西署盤松坊東口四街里七十八統九戸李松國方同居李仁圓の妻女文姓女（四十）が小刀を以て吾れと吾が咽喉を突き自殺を圖りし事の顛末を左に記さんに

元來此の文姓女といふは前記李松國の妻女にて閔姓女と呼ぶものゝ叔母に當り居るものなるが常より至つて陰氣にて何事にまれツマラヌ事を氣に病む性質なるが實は今より二ヶ月許り前閔姓女が夫に無斷にて何れへか姿を隱し行衛不明となりたるより李は非常に心配し諸所心當りの家を尋ぬれども更らに判明せず殆んど困却の態なりしが如何なる心の僻見か家人の家出は必定文姓女の煽動に出でしものに相違なしと斷定し爾來毎日の如く文姓女に向つて閔女を搜索し來るべしと促がし文女の更らに其の行先を知らざる由を辨解すれば其のやうな筈はないと齒を剝き出して叱り飛ばし果ては口汚く罵詈讒口を試むるより文女も今は居るに居堪らずさりとて今更何れへ引き拂ふといふ事も出來ず人知れず悲嘆の涙を絞り居りしが女心の唯一筋に口惜しい悲しいと思ひ詰めては氣も心も常軌を逸するやうになり終に近頃にては寸分紛れもなき精神病者と化し了りたるより家人も特に注意を拂ひ居りしが何時の間にか其の隙を窺ひ結局前述の通り自殺を圖りたるものなりといふ而して出血は割合に多量なれど急所を外れ居るに依り今後とも生命には勿論別條なかるべしとの事なり

●變死二件

去る十七日午前八時頃西部警察署所轄内廣州郡彦周面狎鷗亭正谷里字江邊に於て三十六七才位の勞働者らしき韓人一名變死し居りしが死因は他殺の跡歴々たるものにて察するに毆打後手足を制縛され水中に投入せしため死に至りたるものらしく死体は洞長に引き渡し目下犯人搜索中なりしといふ△次は再昨十八日午前十時西署盤松坊[illegible]月里の路地に住所不明李士弘（二十）といふもの倒死し居りしを發見せしが死因は多分肝臓病なるべしといふ

●白川一座の好評

本町座に於ける白川廣一一座は初日以來非常の大入にて太夫元の峰松も大に面目を施しつゝありとの事なるが此一座の呼物なる雪月花の電氣應用は一寸目先變りて觀客を喜ばしむるに足るは勿論なり殊に切狂言娘道成寺に於て只に女優静子の花子のみならず座長白川を始め他の三四優が寺僧となりて舞を試むるは只に舞台を賑わすのみならず新俳優中斯る素養あるもの至つて尠なき今日觀客をして嬉からしむること少々にあらず但し慾を云へば江戸ツ兒に扮したる二三優中にはあまり江戸辨に達し居らざるものがあると夏祭に袷を着て團扇を使ひ居るなどは何とかせねばならざるべし

●蔬菜種子配布

長崎縣西彼杵郡浦上農業傳習所にては傳習生が實習地より產出せし、長崎白菜及び長崎澤庵大根の種子等を九州の農事講習生一千名限り無代價配布せらるゝ由希望の者は至急厚紙製の狀袋に一錢郵券を貼用し自己の姓名を記したるものを添へ申込まるべし因みに記す右は農事講習生に限られたるも一般農業熱心家の向きには實費にて配布せらるゝ由なれば左の品目を熟覧の上申込まるべしとなり

長崎澤庵大根種	一合十錢
練馬大根種、	同　十錢
長崎白菜種	同二十錢
大葱種	同二十五錢
大かぶ種	同　十錢
除虫菊種	同四十錢
晩生大紫雲英種	一石二十三圓

●石を以て額を割る

長谷川町二丁目水月樓事池田根吉は長男律男（七つ）が泣きながら戻り來りしかば　根吉は何事ならんと律男の額を見れば眉の上に長さ一仙米の負傷をなし居りしにぞ大に驚き其理由を聞けば西部師洞五十統八戸崔聖權の子今成（十三）が石を投げ付け負傷せしめたること判りしかば此旨南部警察署に訴出たるに該は手術料及び藥價等三圓八十錢を辨償すると申出で示談を乞ひたれば其筋に於ても懇々說諭の上放還されたり

●賭博から喧嘩

一昨十九日午後二時頃會洞駐車場の人力車夫黄愚然（三十）は賭博の事より喧嘩を初め同じ仲間の嶽傑なる者は面倒とや思ひけん黄を毆打して右胸に負傷せしめたれば南部警察署に引致し雙方說諭の上放還されたり



●所も憚らぬ馬鹿者

昨日の午前一時四十分頃何處かの淫賣屋にでも飲んだものかグデ／＼となりたる二名の醉漢大聲を揚げながら何事か喋舌くりながら南大門の方より明治町巡査派出所前に來りたるが此時同派出所詰の巡査が巡回の歸途尾行するとも知らず所もあらうに同派出所前に佇立して大股を廣げ三十珊半もあるべき例の一物の筒先を向けシャ／＼と放ちたる所をコラ何をすると引捕へられて告發されたり

●赤痢と腸窒扶斯

京城本町六丁目九五番戸瀬戸ヨ子（十七）は十八日赤痢に明治町三丁目五一番戸長岡マツ（二十）は十八日腸窒扶斯に罹り何れも避病院に送られたり

●天氣豫報（自十九日午後六時 至二十日午後六時）

南又は東の風雨
二十日午前六時各地氣象概況
南又は東の風吹き北部は雨天其他は概ね曇天なり

廣告

西の宮お樂の述懐(三四)

◎情死の噺し

今日本橋で立派な商人さんになつて居る或商店の旦那が仙臺に居た頃私とは極くの仲宜しだつた或藝者に深くなりまして◯どう〳〵情死といふ時代な事をやらかしましたが突き所が急所を除けて居た爲か幸い男女とも生命は取り止めたのでムいます然し其場所「……に萬事はおらくさんに御聞取のほど願上候……」といふ文句の這入つた女の方の書置きがありましたので其筋の御役人が捨て〳〵置かず私を證人といふ事で裁判所へ呼び出しました座敷なら如何な六ツ個敷た座敷でもピクつく樣な事はムいませんが裁判所と來たので私も其通達書を見た時には眞正ギヨツとしました然し自分の身に暗い事が無いのだから裁判所だらうと何だらうとチツトも恐れる譯は無いとツマリ附景氣をつけて出掛けるには出掛けましたが彼の西洋扉をガタンピシヤンと閉められた際には夫りやア何とも言はれ無い厭な氣が致しました變に薄暗い室に暫時待たせられてヤツトお呼び出しになりましたが胸の中は早鐘をつく樣な鹽梅で建築の工合が如何なだつたかそんな事なんぞはテンで目には這入りません……イヤ人の顔さへ碌々判然ません位でした名を聞かれ居所を聞かれお歳を聞かれするうちに段々をち氣が取れて參りましたので鳥渡仰向いて裁判官のお顔を見ると驚きました◯

私の關係をつけて居た寺島さんは裁判所にお勤なさるお方だといふ事はトツクの先に承知して居りましたが其方に此處で……夫れも普通と違つて斯樣な事でお目に掛らうとは……實際意外でしたからアツと言つたなり呆れ返り猶追ひ掛けてお聞きになるお言葉も耳へは這入らず暫時默然で居りますと「オイこら如何おぢや……默然つて居ては判然らん……如何ぢや」と夫れは〳〵酷しいおつしやり樣なんでムいますお茶屋さんへお遊びにお出でになつた折などには何時も私を相手にして柔順しく御酒を召し上つて入らしつて高聲一ツお出しになつた事の無いお方がお役柄とは言へ宜くもあゝ變れば變れるものと私は其時ツク〴〵さう思ひました然し餘り眞面目臭つてお出でなさるから「寺島さん貴下今日は如何なすつたのサ……」とつきめ込んでやらうかとも存じましたが場所が場所でしたので夫れ丈は思ひ止まつて仕舞ひました相手が寺島さんだつたので私は急に心丈夫になり聞かれる事はスラ〳〵と御答をする樣になりましたので裁判が存外早くすゝんで往きまして傍聽禁止とかいふ昔ならお人拂ひといふ裁判になりましたが寺島さんも寺島さんぢやアありませんか「男と女とが深くなると双方如何な工合になるもんぢや」なんかんて下ら無い事をお聞きになるのでムいます(續)

●新聞料 ▲一枚金二錢▲一ヶ月前金卅五錢▲三ヶ月前金壹圓▲六ヶ月前金貳圓▲郵稅一ヶ月金拾參錢

●廣告料 ▲五號活字十九字詰一行一回四十錢▲特別廣告五號活字十九字詰一行金五十錢

發行兼編輯人 秋山忠三郎

印刷人 高木久馬太

發行所 京城新聞社 京城西署西小門通 電話六六三番